



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第21号 (H23.10.28)

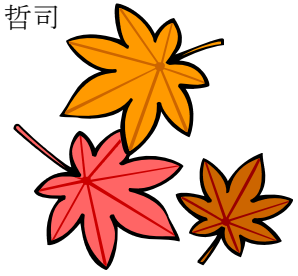
宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 前田 哲司

しつ じつ ごう けん  
質 実 剛 健

「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」



## 福祉交流体験活動の実施！

～心がやさしくなれましたか？～

10月14日(金)に福祉交流体験活動を実施しました。1年生は、福祉施設を2年生は、保育園を交流体験しました。1年生の体験した施設名は、(特別養護老人ホーム・サービスセンターわかば・さざんか苑サービスセンター・けあらいふ正寿の都・サービス正寿の都・ウエルネス苑都城・グループホーム ウエルネス・グループホーム しらゆり・豊望園サービスホーム・NPO法人 キャンパスの会)です。2年生の体験した保育園名は、(天竜保育園・チャイルドセンターポピー園・相愛保育園・早鈴保育園・下長飯保育園・ぼっぼ保育所・ひばり保育園・すずらん保育園・上長飯保育園)です。生徒は、それぞれの施設に分かれて事前学習で行ったことがいかに老人の方々や保育園児に対応できるのか、それぞれにわかったのではないのでしょうか。また、今後この体験を通して、自分に何ができるのか考えてほしいと思います。



<附属中2年生 保育園児との交流活動>

### <2年生:生徒の感想>

- 今回の保育園訪問が決まった時、正直こう思いました。今までに保育園に行ったことはもちろん、小さい子供と遊んだことがほとんどない僕は不安な気持ちで中に入りました。でも入った途端小さい子供たちの歓声と元気の良さに不安は吹き飛んでいきました。その子供たちと過ごした一日はとても楽しく、こちらがパワーをもらったように思います。(ひばり保育園)
- 今回の保育実習で感じたことは～子供たちはとても無邪気で純真で可愛かったです。子供たちはみんなとても元気で明るくて、元気に溢れていました。純真だった子供たちは、輝きであふれ、私たちが時を経て、少しずつ失っていくようなものを持っているように思えました。私はそんな子供たちがまぶしく思えました。自分自身にも、そんな時があったと思うと嬉しいような、切ないような複雑な気持ちになります。(すずらん保育園)
- ～指導の仕方を先生に教わりました。例えばまず保育園児と話す時は、目線を合わせることや危ないときは「危ないよ」と声をかけるだけでなく、なぜ危ないかを教えることということです。(相愛保育園)
- ～子供の笑顔はすごいということです。保育園の先生は「この子たち大変だけど、あの笑顔を見たらね、がんばるしかないんだよ」と言っていました。～子供たちに私が帰る時に、笑顔で「また来てね！」と言われた時はとても嬉しかったです。(チャイルドポピー園)
- ～保育園という場所は園長先生が言ったように「命を預かる」所でもあり、子供たちに大切なことを教えていく場所ということが今回の活動で分かりました。(天竜保育園)
- ～保育園児の面倒だけでなく、一人ひとりの連絡帳に今日の出来事を書いたり、給食を作っている方は、栄養を考えて給食を作ったり、休むひまなどないような感じでした。(ぼっぼ保育所)
- ～今回の実習はとても心に残る思い出となりました。たった一日しかなかったのに、あの子たちは忘れてしまうかもしれませんが、私にとっては本当に思い出深い体験でした。(下長飯保育園)



＜附属中1年生 福祉施設での交流体験活動＞

### ＜1年生:生徒の感想＞

- ～僕は認知症の人たちと実際に接してみて、このような認知症の人たちの話は反発せず優しく接してあげることが大切だと学びました。例えば自分が話していることと、相手が話していることがもし、違ったとしても、否定せずに話を合わせて受け入れてあげると介護される方と介護する方の人も話を一方的にしたり、されたりすることがなくなり、押し付けるだけの介護にならなくなると思います。(グループホームウエルネス)
- ～学んだことが2つあります。1つめはリハビリについてです。～入居者のペースに合わせてリハビリをするので、相手のことを考えてしなければならないんだなあと思いました。2つ目はコミュニケーションの大切さです。コミュニケーションを深めるためには、毎日少しずつ会話を増やしていき、どんどん絆を深めていけばいいと思います。しかし、それは簡単なことではないと思うので難しい仕事だと感じました。(ウエルネス苑都城)
- ～高齢社会になるにつれ、福祉はこれからますます課題が増えていくと思います。次の世代を担う私たちが責任を持って、お年寄りが安心して暮らせる社会にできるように考えていかなければならないと思いました。(正寿の都)
- ～私たちは、利用者のみなさんの前で「ふるさと」と「もみじ」を歌わせていただきました。利用者のみなさんが喜んでくれたのでよかったです。僕は、将来医者になるのが夢です。職員の方のように人を助けられるようにがんばりたいです。(豊望園テイサービスセンター)
- ～今回体験してよりよい介護をするためには、相手の立場や目線に立ち高齢者の方を敬う気持ちを持って接することが大事なのだなと思いました。体験させていただき本当にありがとうございました。(豊望園テイサービスセンター)
- ～班で歌を歌ったとき利用者の方はとても喜んでくれて手拍子をしてくれました。みなさんが笑顔でした。私は、その笑顔を忘れないと思うくらいに嬉しかったです。私は、今回たくさんの方と触れ合うことができ、よかったです。またお年寄りの方と触れ合うことができたらいいなと思います。(けあらいふ正寿の都)
- ～テイサービスセンターに行って私が一番思ったことは、介護師の方やその他の方たち全員が笑顔でお仕事をなさっていたことです。私は、友達や母などからよく「もう少しにこっと笑ったら」と言われてしまいます。でも、テイサービスセンターで働いている方たちは全員自然な笑顔で全てのお仕事をなさっていました。笑うことが苦手な私は、なおさら見習わないといけないなあと思いました。初めてしたことばかりで、とまどったり困ったりしたこともありましたが、貴重な体験をすることができて本当に良かったと思います。(さざんか苑テイサービスセンター)
- ～安心したことは、高齢者の方が楽しそうに生活をされていたということです。私のひいおばあちゃんも養護施設に入っていて、家族と会えないでさびしい思いをしていないかととても心配でした。しかし、介護師の方が優しくお世話をしているのを見て、とてもホッとしました。福祉交流体験活動を通して、福祉に大切なことは、「高齢者の方が安心して快適に暮らせること」ではないかと思います。私にもできることはあると思うので、小さな事でもいいから何かできるいいなと思います。(特別養護老人ホームわかば)
- ～この一日が私にとっては、とても貴重なものとなった。私は将来多くの人役に立ちたいと思っているから、今日学んだことを将来に生かしていきたい。(特別養護老人ホームわかば)